



環境報告書 2023

(2022 年度実績)



© DBox for Mori Building Co., Ltd.

株式会社 駒井ハルテック



REGISTERED ORGANIZATION
No.0260-ISO9001
No.E2066-ISO14001



MS
CM002



目 次

	トップメッセージ	1
	経営理念	2
	環境・品質方針	2
目標と戦略		3
	サステナビリティ基本方針とマテリアリティ	4
	中期経営計画 2023	5
	環境マネジメントシステム	7
気候変動への取り組み		9
	気候変動への取組	10
環境活動報告		15
	環境との調和	16
	再生可能エネルギー事業	21
	橋梁建設(架設)現場での環境に対する取組	23
	温室効果ガス排出量と使用エネルギー量の推移	28
	環境製品への取組(実績紹介)	29
	主要事業所(サイト)における環境 MS への取組	30
会社概要		35
	会社概要	36



富津工場



和歌山工場



トップメッセージ



『中期経営計画 2023』初年度、一人一人が収益志向を高め、変革を成し遂げる！

2022年3月にまん延防止等重点措置が全て解除されて以降、消費と設備投資が前期比プラスで推移するなど国内景気は緩やかに持ち直し、需要の改善が見られるようになってきました。しかし、ロシアのウクライナ侵攻によるサプライチェーンの乱れに起因する原材料価格の上昇や、円安による輸入物価の上昇が国内物価を押し上げ、家計や企業の活動に悪影響を与えています。また、世界的な金融引き締め動き等により、海外の景気減速も懸念されます。

このような不透明で厳しい事業環境の中、当社では2022年度売上高が前年度を3割強上回るものの、営業利益が大幅減益となりました。2023年度は新たに策定した『中期経営計画 2023』の初年度となります。これらを強力に推進し、会社の持続的成長と企業価値の向上を図るために、安全・品質はもとより、収益志向を高めること、新たな変革を成し遂げることを当社グループ一丸となって目指します。

また、サステナビリティ経営ならびにマテリアリティへの取り組みの一環として、気候変動への取り組みを推進し、2050年のカーボンニュートラルに貢献すべく取り組んでまいります。既存のコア事業を軸にしながら、環境インフラ事業は陸上風車の販売拡大に向けてラインアップの充実やスケールアップ機の開発を進めています。さらに、次代の中核ビジネスの一つとなる洋上風車タワー製造へ進出すべく取り組んでいます。

当社の経営理念「高い技術力で夢のある社会づくりに貢献する」のもと、技術力のさらなる向上を図るとともに、社会貢献と顧客満足を目指してまいります。7つのマテリアリティから機会・リスクを抽出し、それらの取り組みを進めることで企業価値の向上に取り組めます。そのためには、デジタルトランスフォーメーション(DX)の活用、人材育成、働き方改革をさらに推進し、安全・安心を確保しながら、職場環境と労働環境のさらなる改善を進めてまいります。

私たちは「環境にやさしい企業体質」を構築し、一人一人がやりがいを持ち、収益志向を高めながら、持続的な成長を実現すべく取り組んでまいります。

取締役社長 中村 貴任





経営理念

『高い技術力で 夢のある社会づくりに貢献する』



環境・品質方針



基本理念

当社は、「高い技術力で、夢のある社会づくりに貢献する」との経営理念の下、以下の活動を通して社会的責任を果たす。

当社は、国民の生活基盤となる橋梁、鉄骨、風車などの製造、建設事業を通じて社会資本の整備に貢献しつつ、生産、建設過程における使用エネルギーや排出物(CO₂、産業廃棄物など)等の環境負荷要因の低減に取り組む。



方 針

1. 環境・品質マネジメントシステムの実効性を高める。
2. 「顧客満足」をいただける製品の提供とサービス向上に努める。
3. 環境負荷低減を目指した企業活動を展開する。
4. コンプライアンスおよび内部統制システムの成熟に努め、責任ある企業活動を展開する。

目 標 と 戦 略





サステナビリティ基本方針とマテリアリティ



サステナビリティ基本方針

経営理念の下、「持続可能な社会の実現」と「企業の持続的成長」を両立させるサステナビリティ経営に取り組み、中長期的な企業価値向上を実現させるために、その基本方針を以下のように定めています。

地球と社会に貢献する企業を目指します。

1. 地球環境の保全に取り組み、将来世代へ希望を繋ぎます。
2. 社会インフラを提供し、安全で安心な生活を支えます。
3. 人財と技術を礎に、社会課題の解決に取り組みます。
4. 高い企業倫理と企業統治により、透明公正を確保します。



マテリアリティ

サステナビリティ基本方針に基づき、7つのマテリアリティを特定しています。

1. カーボンニュートラル社会の実現

- ・CO₂排出削減
- ・再生可能エネルギー施設の拡大



2. 自然災害への対応強化

- ・災害復旧対応力の強化
- ・協力会社を含む BCP 構築



3. 安全安心の社会インフラづくり

- ・品質確保(長寿命、保全更新へ対応)
- ・責任ある供給、効率的供給の実現



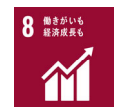
4. 新技術開発

- ・高難度物件への取り組み、高付加価値の提供
- ・新たな社会ニーズ対応、資源の効率的消費



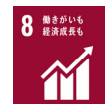
5. 人財開発

- ・人財育成(キャリア支援)
- ・ダイバーシティ&インクルージョン



6. 労働安全衛生の確保

- ・災害の撲滅
- ・労働環境の整備、働き方改革推進



7. 企業活動における透明性と公正性の確保

- ・コンプライアンスの徹底、人権尊重
- ・ガバナンス、リスク管理の充実





中期経営計画 2023



基本方針・基本戦略

基本方針

『技術力とブランド力』に磨きをかけ、社会の発展に貢献する

新技術の開発と DX の推進により、新たな事業モデルと市場の開拓に取り組む

収益志向を高め、業績の飛躍的向上を果たし、併せて企業価値を高める

基本戦略

受注ポートフォリオを再構築し、経営資源の活用レベルを引き上げ、事業価値の底上げを図る

風車ビジネスの先駆者として、新たな領域となる「洋上風車タワー」の製造にチャレンジし、カーボンニュートラル社会の実現に貢献する

安全と品質をベースにモノづくり改革に取り組み、大型インフラ事業での貢献を通じ収益を極大化する

サステナビリティ経営ならびにマテリアリティへの取り組みを通じ企業価値を高める

技術力の源泉となる人的資本への取り組みを強化し、働き方改革を通じて人財の活性化を図る

ガバナンスと情報発信を強化し、ステークホルダーの期待に応える



売上高、利益計画

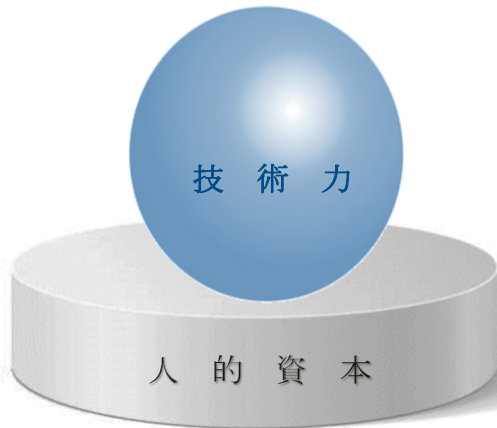
<百万円>

	2022 年度 実績	2023 年度 予測	2025 年度 目標
売上高	39,727	54,000	60,000
橋梁	14,495	20,250	18,000
鉄骨	24,237	32,200	37,000
インフラ環境	454	1,000	4,400
その他	593	550	600
営業利益	315	900	5,000
(同 利益率)	(0.8%)	(1.7%)	(8.3%)
経常利益	481	1,100	4,700
帰属当期純利益	328	600	3,300

- ・首都圏再開発事業の高層ビル案件を受注することにより、高操業が見込まれる鉄骨事業の売上高が 370 億円に(+123 億円)増加
- ・成長事業と位置づける風車ビジネスが成長初期段階へと入り、売上高規模が 44 億円に拡大
- ・各工場における生産性向上(工場改革)、徹底したコスト管理、橋梁事業の案件採算改善
- ・営業利益率を重要な経営指標の一つとし、収益志向を高め、営業利益を 50 億円(8.3%)まで引き上げ



技術力の源泉となる人的資本戦略

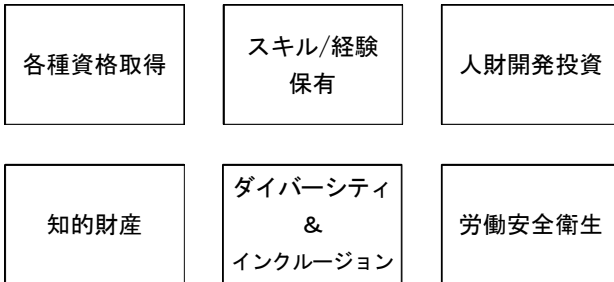


人的資本の考え方

- ◆ 当社の競争優位性の源泉は、これまでに培い継承してきた技術力である。
- ◆ その技術力を支える代表的な経営資源が人的資本である。
- ◆ 当社では、人的資本への取り組みは重要な経営課題と捉え、多様な人財が最大限の能力を存分に発揮できることを目指す。

人的資本充実にに向けた取り組み

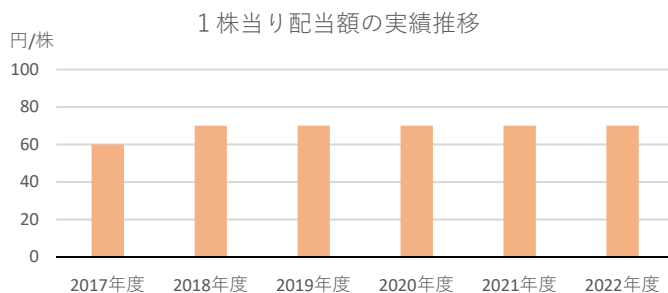
- ◆ 主要テーマ
 - ・ 各種資格取得の推進、高度なスキル/経験保有者の増強を通じ、技術力を背景とした案件対応力の強化を図る。
 - ・ 人財開発、知的財産への取り組みを強化し、技術力の底上げを図る。
 - ・ ダイバーシティ&インクルージョンを推進し、多様な人財が集い活性化した風通しのよい組織を構築する。
 - ・ 労働安全衛生の確保に注力し、安心して働き、人財が最大限のパフォーマンスを発揮できる職場環境を整備する。
- ◆ 主な取組施策
 - ・ 資格取得サポート、個別キャリア指導、適性に応じたジョブローテーションなどに取り組む。
 - ・ 状況を定量的に把握し、計画的に主要テーマを遂行する。



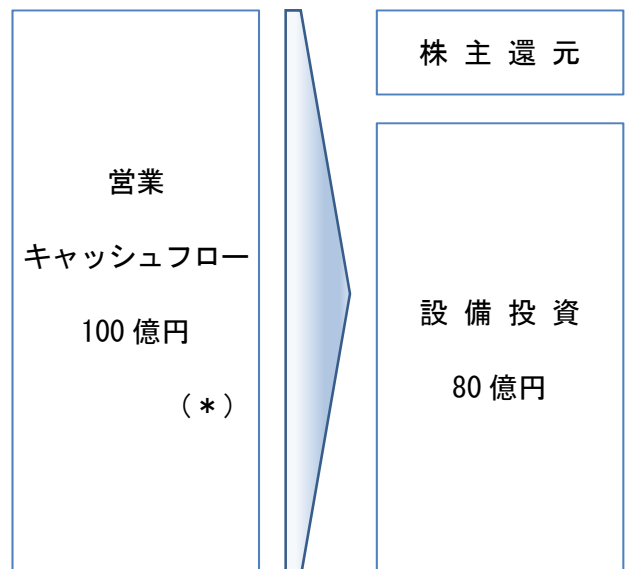
資本計画

期間中の資金、投資計画の概要

- ◆ 計画期間中の営業キャッシュフローを 100 億円と見込む。
- ◆ 営業キャッシュフローについては、先ず設備投資に 80 億円を投ずる。
- ◆ その主なものは、風車事業の製造設備、橋梁と鉄骨の工場改革投資である。
- ◆ 株主還元は、引き続き 安定配当を基本方針としつつ、業績拡大に応じ増配にも努める。



2023 年度 ～ 2025 年度 の 3 カ年



(*) 増加運転資金を除く



環境マネジメントシステム



環境年度目標(2022 年度)

1. 環境負荷の低減
2. 環境側面管理(サイト環境側面管理表の履行管理)
3. 産業廃棄物排出量の削減目標値設定
4. ごみ減量(リデュース)の目標値設定
5. 地域貢献活動(地域交流、近隣清掃など)



会社年度方針(2022 年度)

『新たな技術と事業への挑戦で社会とともに持続的成長』

1. 新技術と新事業への戦略的な取組み
〔新技術の開発・導入で事業の変革と領域拡大、新たな収益モデルの実現と収益基盤の強化〕
2. 受注拡大と収益力の向上
〔高付加価値案件の受注、企業評価、コスト意識、追加変更〕
3. DX推進の加速で競争優位性の実現
〔効率化、自動化、働き方改革、スキルアップ〕
4. 安全と高い品質で顧客満足向上
〔ゼロ災害、安全衛生活動の推進、安全・品質管理システムの充実〕



環境年度目標(2023 年度)

1. 環境負荷の低減
2. 環境側面管理(サイト環境側面管理表の履行管理)
3. 温室効果ガス排出量の算定(精度向上)と削減検討(TCFD への取り組み)
4. 産業廃棄物排出量の削減目標値設定
5. ごみ減量(リデュース)の目標値設定
6. 地域貢献活動(地域交流、近隣清掃など)



会社年度方針(2023 年度)

『中期経営計画 2023』初年度、
一人一人が収益志向を高め、変革を成し遂げる！

1. 技術力、ブランド力を活かした受注獲得
2. 収益体質強化に取り組み、新たな事業モデルと市場の開拓に挑戦する
3. 安全、品質、生産性を徹底追求する
4. 人財、チームワークを通じて企業価値を高める

駒井ハルテックグループの

気候変動への取り組み





気候変動への取組

近年、気候変動への取組は企業において不可欠な、重要な課題の一つと捉えられています。当社でも従来から、社会インフラを担う企業として、災害に強いインフラ設備や橋梁の災害復旧をはじめ、インフラ環境事業における再生可能エネルギー事業等を通じ、持続可能な社会の実現にも取り組んでいます。

2022 年 2 月には、気候変動対策をはじめとしたサステナビリティへの取組を推進し、その統括管理を目的として、「サステナビリティ委員会」を設置しました。また、2023 年 3 月には TCFD^{※1}による提言への賛同表明を、4 月には GX リーグ^{※2}への参画を行いました。

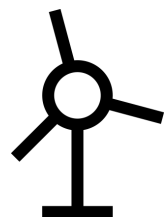
今後は、これらの活動を通じて、気候変動による経営リスク・機会の特定と対処、排出量の把握と削減、インフラ環境事業成長加速(陸上風車の販売拡大、製品ラインアップの充実、洋上風車タワーの製作等)を推し進めることにより、脱炭素社会に貢献していきます。

※1 TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)

G20 の要請を受け、金融安定理事会(FSB)が 2015 年 12 月に設立。気候変動によるリスク及び機会が経営に与える財務的影響を評価し、「ガバナンス」「戦略」「リスク管理」「指標と目標」について開示することを推奨する提言を 2017 年 6 月に発表。(TCFD website: <https://www.fsb-tcfd.org/>)

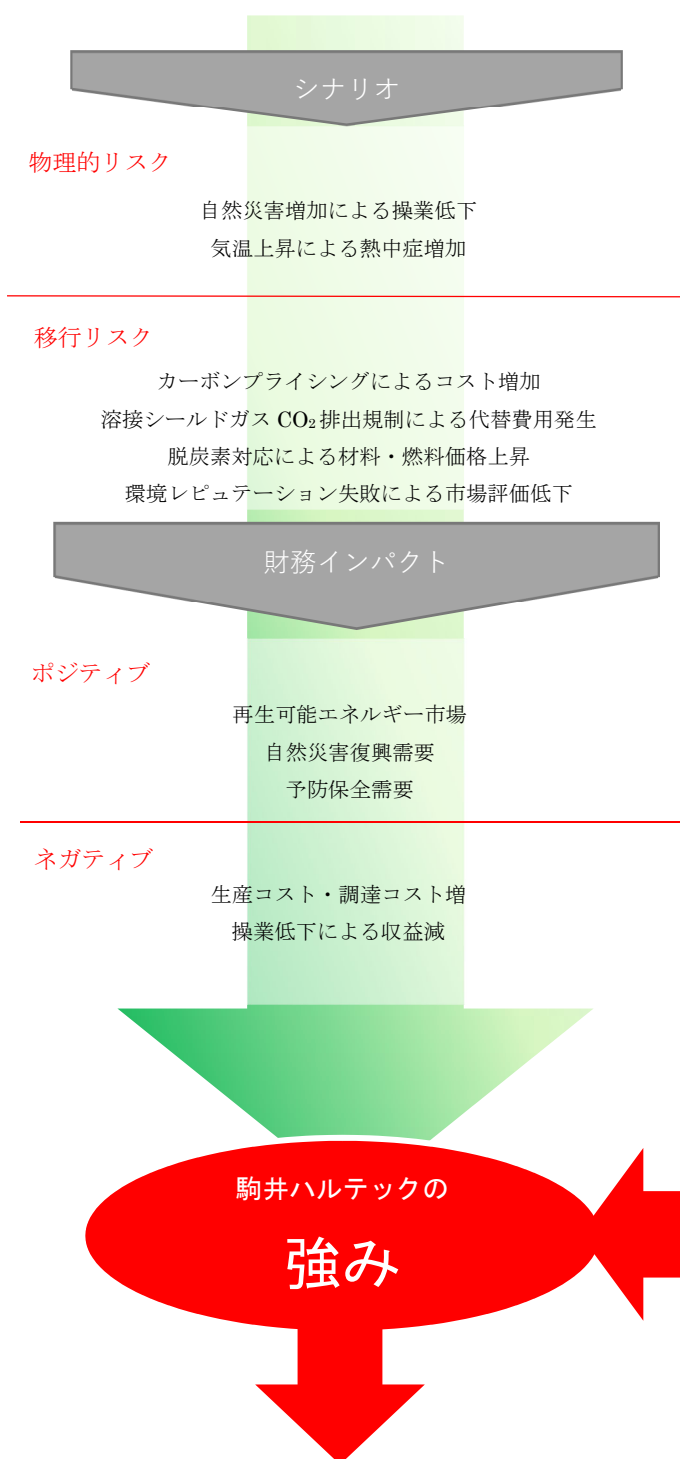
※2 GX リーグ

GX(グリーントランスフォーメーション)に取り組む企業が、同じく GX の取り組みをおこなっている官公庁・大学とともに、経済社会システムの変革や新たな市場をつくるための実践をおこなう場。GX への挑戦を行う企業が、排出量削減に貢献しつつ、外部から正しく評価され成長できる社会(経済と環境および社会の好循環)を目指す。(GX リーグ website: <https://gx-league.go.jp/>)



(風車の地図記号)

◎駒井ハルテックの気候変動への対応戦略



風力発電



太陽光発電



スカイソーラー

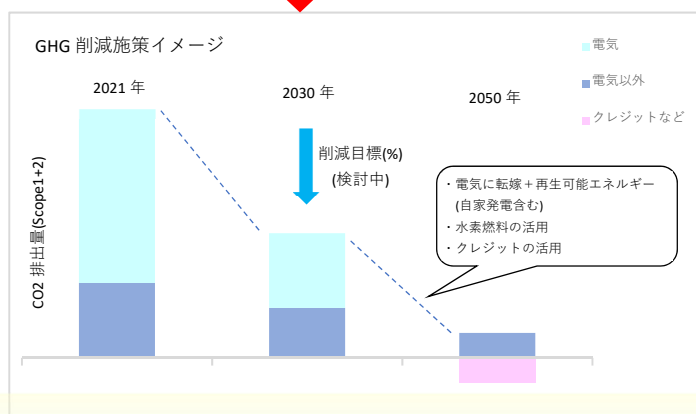


気候変動への取り組み

- ・サステナビリティ委員会発足
- ・TCFD 提言に基づく情報開示
- ・GX リーグへの参画

インフラ環境事業の事業戦略

- ◆ 陸上風車の販売拡大、海外インフラ開発案件への取り組みにより、売上高 44 億円へと大きな成長を目指す。
- ◆ 陸上風車の販売強化に向け、以下の施策を展開する。
 - ・陸上風車ラインアップを早期に拡充（台風仕様、寒冷地仕様、スケールアップなど）
 - ・国内リブレース需要、脱炭素化ニーズへのアプローチ
 - ・営業体制、販売ネットワークの構築
- ◆ 陸上風車製造体制の整備増強により、製造コストを引き下げ、市場浸透を図るとともに利益体質を確立し、セグメント利益 7 億円以上とする。
- ◆ 次代の中核ビジネスの一つとなる洋上風車タワーの製造整備に取り組む。
 - ・製造ライン新設に向けた大型設備投資の遂行
 - ・グローバルメーカーとの協力を視野に要素技術を開発
 - ・設備利用率向上と大量生産技術の確立によるコスト低減



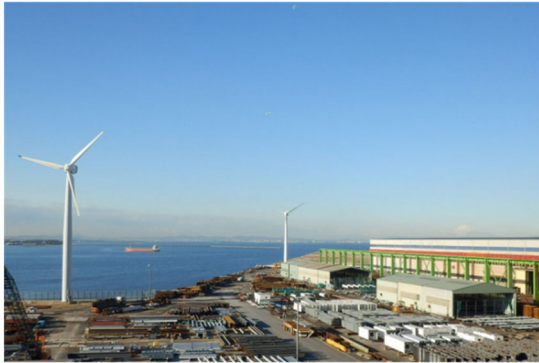


風力発電



◎富津工場

当社では、設置場所の気象、地形条件等にあった風力発電機の開発・生産に力を注いでおり、当社富津工場内にも 2006 年 9 月に 1 号機を、2014 年 2 月に 2 号機を設置しています。これらの風力発電機は継続的な研究・開発に資するとともに、生み出された再生可能エネルギーは富津工場における橋梁・鉄骨の生産工程の動力源として利用されています。



富津工場:風車 1, 2 号機(奥が 2 号機)

富津工場における風力発電の概要

設置者	株式会社 駒井ハルテック	
設置場所	千葉県富津市新富(駒井ハルテック内)	
用途	工場用電源 および 売電	
風力発電機	1 号 機	2 号 機
定格出力	300kW × 2 基	
運転風速	3 ~ 25m/秒	
稼働開始	2006 年 9 月	2014 年 2 月

2022 年度 富津工場における風車による発電量

(単位:kWh)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1 号機	41,923	19,456	33,970	36,540	42,219	30,889	48,548	29,016	38,581	26,670	6,639	32,415	386,866
2 号機	0	0	0	511	26,223	28,073	35,339	14,328	15,831	11,179	26,026	19,678	177,188
合計	41,923	19,456	33,970	37,051	68,442	58,962	83,887	43,344	54,412	37,849	32,665	52,093	564,054

※風力による発電量が、富津工場の全使用電力量に占める割合(風力発電寄与率)は、年間約 9.7%となっています。

※2 号機の 4~7 月は蓄電池設備併設工事による停止期間

◎宮川公園



三浦市の南部に位置する宮川公園内には、平成 9 年 3 月から平成 31 年 3 月まで通産省資源エネルギー庁(当時)が「風力発電フィールドテスト事業」として風力発電設備を設置していました。三浦市のランドマーク的な景観として定着するとともに、風力発電設備を身近に感じられる公園でしたが、平成 31 年 3 月老朽化と部品調達の困難さから風力発電設備を撤去、当社が令和 2 年 5 月より再設置し、2 基の風力発電設備を設置管理運営しています。



三浦宮川風力発電所

宮川公園における風力発電の概要

設置者	株式会社 駒井ハルテック	
設置場所	神奈川県三浦市三崎町六合(宮川公園内)	
用途	売電	
風力発電機	1 号 機	2 号 機
定格出力	300kW × 2 基	
運転風速	3 ~ 25m/秒	
稼働開始	2020 年 5 月	

2022 年度 宮川公園における風車による発電量(2 基合計)

(単位:kWh)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1, 2 号機	119,722	61,303	86,765	71,323	94,644	105,660	125,957	93,182	77,364	76,032	122,738	94,882	1,129,572



太陽光発電



◎富津工場

鉄構加工棟並びに橋梁加工棟の屋根を利用してソーラーパネルを設置し、2022 年 10 月から運転を開始しました。この電力は経済産業省の固定価格買取制度を使って東京電力に売電しています。年間発電量は 2,313,000kWh と予測しています。



富津工場：ソーラーパネル

富津工場における太陽光発電の概要

設 置 者	株式会社 駒井ハルテック
設置場所	千葉県富津市新富(駒井ハルテック内)
用 途	売電
設置面積	10,801m ²
パネル面積	2, 163m × 1.030m
パネル枚数	4,848 枚
発電出力	1,974kW
稼働開始	2022 年 11 月



◎スカイソーラー

大部分が山地である日本は平地部分が小さく、用途制限のない地域は極わずかです。そのために、多くの平面を要するメガソーラー事業に適する土地を確保しづらいのが現状です。中村勉総合計画事務所と当社は、現状の地形や土地利用を維持しながら、上空を活用するソーラー事業を提案します。

- ・ハイボール式スカイソーラー：等間隔に設置したハイボールに梁を通し、ソーラーパネルを配置します。



所 在 地:福島県 会津若松市

施 主:富士電機株式会社

形 式:上空ソーラー発電システム(1.3MW)

特記事項:ハイボール型太陽光発電設備架台の設計、製作、基礎工事、据付。

また積雪対策として融雪設備設置工事を実施。

- ・ケーブル式スカイソーラー:ハイボールに張ったケーブルに、ソーラーパネルを配置した吊構造です。



2015 年 8 月から 2016 年 6 月まで富津工場で実証試験をし、安全性が確認されたため、松戸テクニカルセンターに移設して、商業運転(売電)を開始しました。

所 在 地:千葉県 松戸市

形 式:上空ソーラー発電システム(14.5kW)

支 柱 間:22.4m、支 柱 高:4.5m

特記事項:ケーブル懸架型空中太陽光発電装置を開発(特許取得)

For more information, please visit our website!





温室効果ガス排出量の算出

当社では 2012 年度より、工場、事務所からのエネルギー由来の温室効果ガス(CO₂)排出量の算出を行ってきましたが、2022 年度はその範囲を KH グループ全体(駒井ハルテック、東北鉄骨橋梁、KH ファシリテック)に広げ、また、サプライチェーンを含めた Scope1~3 排出量の算出を行いました。また、グループ全体のエネルギー由来の Scope1,2 に関しては 2019 年度までさかのぼり、その傾向を把握しました。今後は Scope3 を含めた排出量の精度向上に取り組むとともに、数値目標を設定し、削減に向けた取り組みを一層加速させます。

KH グループの CO₂ 排出量

(t-co₂)

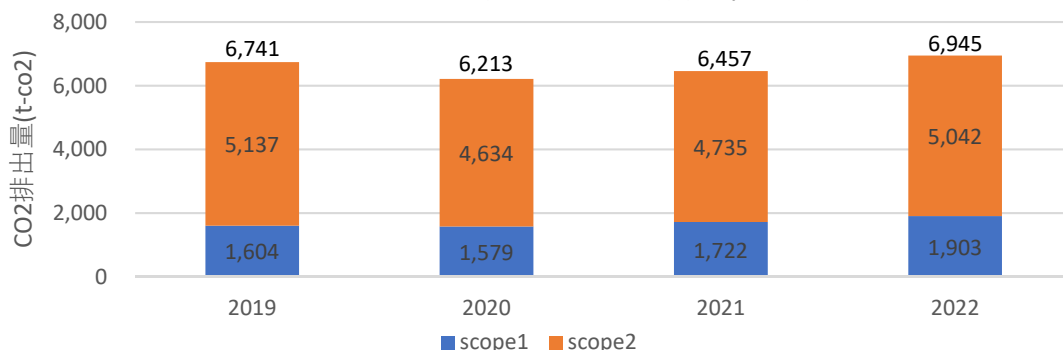
年度	2019	2020	2021	2022(速報値)
Scope1	1,603.986	1,579.329	1,721,657	1,903.389
Scope2	5,137.091	4,633.500	4,734,817	5,041.756
Scope1+2	6,741.077	6,212.829	6,456,474	6,945.145
Scope3	—	—	106,522,657	134,298.272
Scope1~3 合計	—	—	112,979,131	141,243.417

※ KHF は 2020.4 にグループ会社となったため 2020 年度以降のみ計上としています。

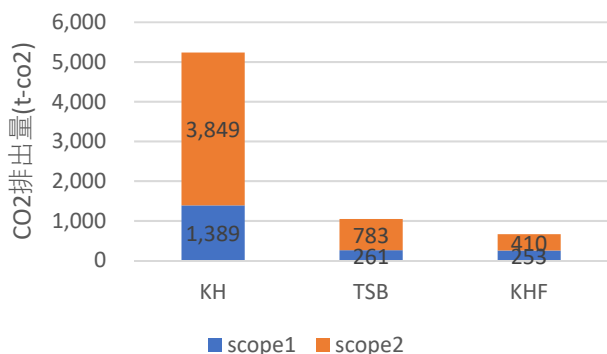
※ 2020 年度以前は橋梁現場からの排出量は含まれていません。

※ 2022 年度は速報値。

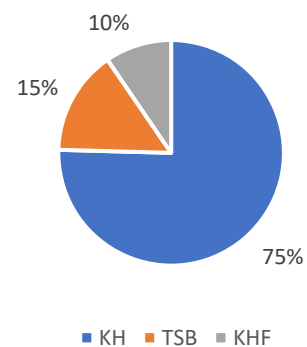
過去4年間の推移 (グループ全体) (scope1+2)



各社の排出量 (scope1+2) (2022速報値)



各社の排出量の比率 (scope1+2) (2022速報値)



注) KH: 駒井ハルテック TSB: 東北鉄骨橋梁 KHF: KH ファシリテック

環境活動報告





環境との調和



富津工場



富津工場が立地する千葉県富津市に対して、企業版ふるさと納税を活用した寄付を実施しました。この寄付は、同市の図書館整備事業に充てられ、同市民の自己教育・調査研究・文化芸術に資する施設の充実化を支援します。また、長らくのコロナ禍で、人との交流が途絶えがちになっていましたが、社員の自主的活動として社内ボランティアを集い、富津市の海岸を3ヶ月に1回のペースで清掃しました。さらに、地域の海岸清掃ボランティア団体とコラボレーションして、社員およびその家族も交えた活動に発展しています。



富津海岸清掃



企業版ふるさと納税 寄附贈呈式



和歌山工場



和歌山工場では、コロナの影響で、取り止めにようになってきた海岸清掃のボランティアが復活しました。地区清掃や古紙回収運動にも参加しています。また、例年のグリーンカーテンの他、富津工場有志の作ったベンチを由良町の公園に寄贈し、地元新聞に掲載されました。



海岸清掃「リフレッシュ瀬戸内」



事務所グリーンカーテン



地元紙・日高新報の記事



古紙回収：白崎小学校

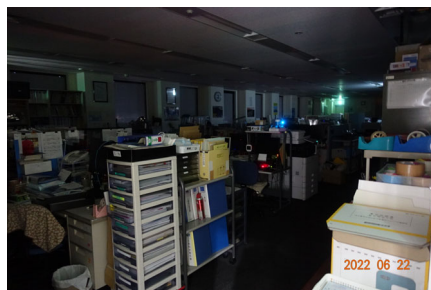
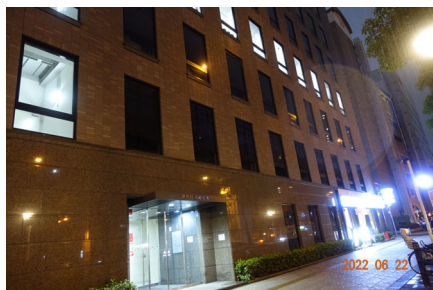


寄贈したベンチ





大阪本店・大阪事業所では、環境省の呼びかけで始めた「CO₂削減／ライトダウンキャンペーン」を、自主的に継続実施しました。



大阪本店 ライトダウン(夏至)



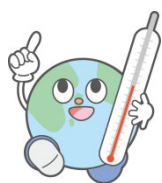
大阪事業所 ライトダウン(七夕)



※ 環境省による呼びかけは2019年4月をもって終了となりました。

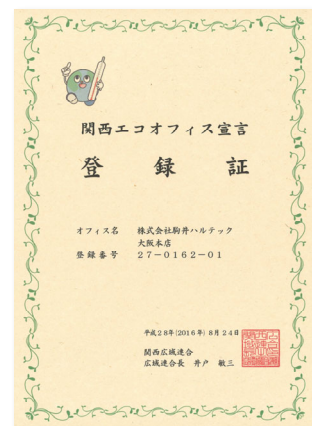
◎ 関西エコオフィス運動に参加

大阪本店、大阪事業所、和歌山工場は、運動の趣旨に賛同し「関西エコオフィス宣言事業所」に登録しています。



※「関西エコオフィス運動」

京都議定書を生んだ京都を有する関西が、全国に先駆け、地域全体が一致協力して、地球温暖化対策に取り組むことが責務であるとの認識のもと、身近なところからの省エネルギー等の取組みを実施する事業所(オフィス)を募集し、地球温暖化防止活動の裾野を広げていく運動。





大阪事業所



大阪事業所では、環境省の呼びかけで始めた「CO₂ 削減／ライトダウンキャンペーン」を自主的に継続するとともに、毎年恒例となっている「グリーンカーテン」を設置し、遮熱効果による空調機への負荷低減を図るなどして、夏期の電力使用量の削減に貢献しています。また、グリーンカーテンの撤去と同時に周辺道路の歩道部の美化活動にも取り組みました。



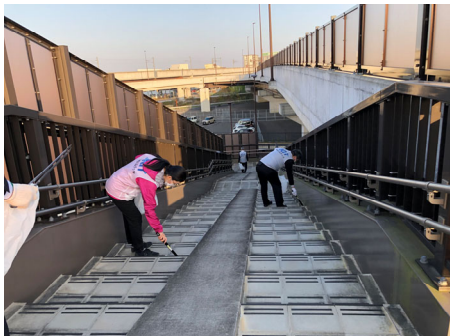
事務所グリーンカーテン



東北営業所(仙台)



東北営業所では、「名取中央高架橋上部工(床版工)工事」(宮城県仙台土木事務所)の完成後、2017 年より「みやぎスマイルロード・プログラム」に参画し、スマイルサポーターとして名取中央高架橋の清掃活動に取り組んでいます(4 回／年)。また、地域貢献として広瀬川一万人プロジェクトに協賛しており、2016 年より広瀬川の清掃活動に取り組んでいます。(2 回／年)



名取中央高架橋清掃活動



広瀬川清掃活動





テクニカルセンター



テクニカルセンターでは、2022 年 12 月 23 日に、「まつど脱炭素社会推進事業所」として登録し、新たな形で、松戸市が掲げる実施要領の必須条件 3 項目を含む 14 項目に、取り組んでいます。また、「COOL CHOICE」(地球温暖化対策に資する賢い選択)の一環としてライトダウンを実施しました。周辺道路および敷地内の美化活動にも取り組みました。



ライトダウン(七夕)



敷地内清掃活動



※まつど脱炭素社会推進事業所登録制度

脱炭素に向けた取組を率先して行っている市内事業者を「まつど脱炭素社会推進事業所」として登録し、その取組内容を広く紹介することで他の事業者への波及を図り、脱炭素社会の実現に寄与することを目的とした制度。(松戸市が 2009 年 3 月に策定した「松戸市 減 CO₂(げんこつ)大作戦(松戸市地球温暖化対策地域推進計画)」に賛同し、2010 年 12 月に「松戸市 減 CO₂(げんこつ)宣言事業所」として登録し、2011 年 5 月には[AAA(最高ランク)]に昇格して、活動をしてきました。2018 年度から「第 2 次松戸市地球温暖化対策事業」としてリニューアル。テクニカルセンターも松戸市地球温暖化対策事業所として引き続き登録してきましたが、この実施要領は 2022 年 10 月 1 日に廃止されました。)

◎エコキャップ運動

エコキャップ運動の目的「リサイクルの促進、CO₂の削減、売却益で発展途上国の医療支援、障がい者・高齢者雇用促進」に賛同し、ペットボトルのキャップの収集を行っています。

2022 年度は 7,783 個(18.1kg)を集め、57.02kg の CO₂ の発生を抑えることが出来ました。





再生可能エネルギー事業

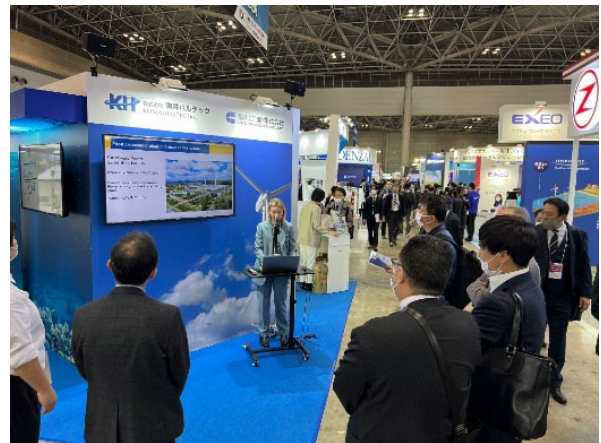


再生可能エネルギーの普及に向けた取組



◎東京ビッグサイト「WIND EXPO 春:国際風力発電展」出展

風力や太陽光により生み出される電力は、温室効果ガス排出削減に寄与し、脱炭素社会に欠かせない再生可能エネルギーとして注目されています。当社は、「スマートエネルギーWEEK」の一環として東京ビッグサイトで開催された国際風力発電展に調和工業と共同出展しました。日本の厳しい気象条件や地域条件に対応できる「中型風力発電機 KWT300」の自家消費や地域インフラとしての設置例を始め、ハイポール式の架台上に太陽光パネルが設置可能な「ハイポール式スカイソーラー」等の紹介をしました。また、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) のグリーンイノベーション基金の支援を受け、「洋上風車向け鋼構造(タワー)製作」ラインを構築していくことについても、ホワイトボードアニメーションを使ってわかりやすく来場者の方に PR しました。



◎富津工場風力発電機ライトアップ

地域の方々へ向けた再生可能エネルギーの啓蒙活動のため、富津工場内にある 2 基の自家消費用風力発電機 (300kW) のライトアップ設備を設置しました。





風車と蓄電池による出力安定化システム



NEDO による風車部品高度化技術研究開発をテーマとした課題設定型産業技術開発費助成金事業として始まった「風車および蓄電池の一体制御による出力安定化システム技術の研究開発」は、富津工場の 2 号機風車に蓄電池設備を併設することで出力安定化システム技術を実証するものです。

蓄電池による出力安定を風車と一体化することにより、風による風車の出力変動に対して効果的で安定した出力が可能となります。その結果、風車の導入が困難とされる独立系統電源地域（遠隔地、島しょ部など）に風車建設の提案が可能となります。



アゼルバイジャン調査



JCM 実現可能性調査(脱炭素分野)として「アゼルバイジャン国・ハイブリッド型風力発電所と熱供給システムの最適化システム導入可能性調査事業」を実施しました。アゼルバイジャンの、カスピ海沿岸にある首都バクーは、「風の街」と呼ばれ、風況に恵まれた場所です。また、2050 年までに「温室効果ガス排出量を 40%削減」する政府方針を掲げ、グリーン成長は国家優先課題と位置付けられています。

再生可能エネルギーの利用による温室効果ガス削減、環境にやさしい熱供給システムの導入による CO₂ 削減を目的として、ハルタン村での導入条件調査を行い、プロジェクトの実現に向けて取り組んでいます。



アゼルバイジャン地図(外務省 HP より)



設置候補地ハルタン村



橋梁建設（架設）現場での環境に対する取組



安全・環境パトロール

12 つくる責任
つかる責任



橋梁架設現場は、都心部、市街地はもちろん山間部、渡河部、海岸付近など自然と共存する場所での作業が多いことから、環境保全に対して細心の注意を払って作業を進める必要があります。

当社では、建設現場関係者（現場責任者、協力会社、店社管理者、安全管理室）と連携し、作業環境の安全性並びに周辺環境への対応の適切性の確認、現場作業従事者の安全意識の高揚を目的に、安全・環境パトロールを毎月、全稼働現場にて実施しています。

2022 年度も引き続き、建設現場における作業環境（騒音・振動、水質汚濁、産業廃棄物、現場特有の環境側面等）に重点を置いて、全国に点在する現場のパトロールを実施しました。



遠隔監視システム使用



2022年10月度
店社安全パトロール



令和4年12月度
店社安全パトロール

パトロール風景



環境に対する個別取組

12 つくる責任
つかる責任



◎騒音・振動対策、排出ガス対策

建設現場の騒音や振動の低減・防止、建設機械からの排出ガス規制の順守を図るため、低騒音・低振動タイプ、排出ガス規制適合の建設機器、重機などを選定しています。また、車両等の待機時の排出ガス抑制のために、アイドリングストップを推奨、指導しています。



使用機械
500tCC



使用機械
バックホウ



オフロード法（特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律）

オフロード法は、建設機械等のオフロード車※の排出ガスを規制するため、2006 年 4 月 1 日に施行されました。施行日以降に製作された新型車は、排出ガス基準を満たす基準適合表示を付したものでなければ国内では使用できません。

※オフロード車：公道を走行しないバックホウ、フォークリフト、ブルドーザー等の特定特殊自動車のことをいいます。



第3次排出ガス対策型建設機械指定制度表示(可搬式建設機械の表示)

オフロード法又は道路運送車両法により排出ガス規制を受けていない建設機械(発動発電機、小型バックホウ等)メーカーから申請、国土交通省が指定後、表示が可能。

第3次排出ガス対策型建設機械指定制度で定められた技術基準を満たす。



超低騒音型建設機械表示

「低騒音・低振動型建設機械の指定に関する規程」(平成9年建設省告示第1536号)の騒音基準値から6dB減じた値を下回る騒音の測定値を得た建設機械。



◎騒音対策(エスパーレンチ) 京田ランプ橋

通常、橋梁現場では、橋梁構造の形状確保の為に、ドリフトピンを打ち込みますが、この時に用いるハンマーの衝撃音が騒音になります。本現場では、この騒音対策としてセフティピンを油圧で引き込むことで衝撃音を発生させないエスパーレンチを使用しました。



◎R アンカー(抜取り可能なアンカーボルト) 河口大橋

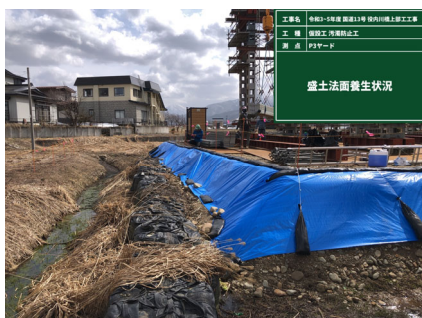
「R アンカー」を採用することで、使用後のアンカーボルトを既設コンクリート構造物内部に異物として残さず、完全に撤去することができるため、既設コンクリート構造物の持続可能性の向上に寄与することができました。





◎絶滅危惧種トミヨ保護 役内川橋

きれいな冷水を好み、水温の低い湧水池やそれに程近い流域などの淡水環境に生息する淡水魚トミヨを保護するため、現場での土砂作業により水質の変化や濁水をさせないように配慮して作業を行いました。



トミヨ生息水路への土砂流出防止



トミヨ生息水路の pH 測定



◎水質汚濁防止

海、河川付近の橋梁建設現場では、海、河川等の用水路の汚染を防止するため、建設機器、重機などの日常点検・整備を実施し、油漏れ等による海、河川汚濁の防止を図っています。また、補修工事などではアンカー穴穿孔時に強アルカリ性の水が排出されるため「水澄まいる」を用いて中和しました。また、緊急時に備えてオイル吸着マット等を常備し、作業者に周知しています。



強アルカリ性の削孔水



⇒

「水澄まいる」を使用



⇒

中性となる



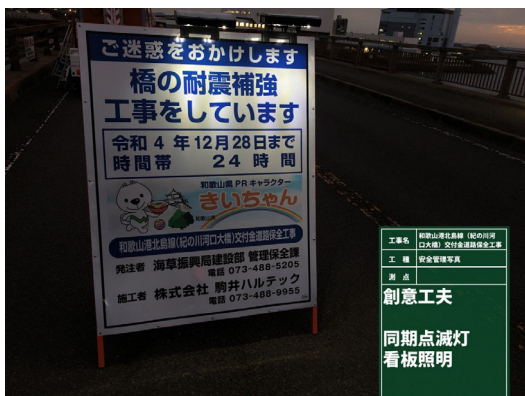
油吸着マット



吸着マット使用訓練

◎ソーラーパネル電源(照明)

橋梁建設現場では、車線切り替えの夜間誘導灯は、ソーラーパネルと蓄電池を用いた電源を使用して点灯しました。



◎産業廃棄物の分別

建設現場より発生する廃棄物は、廃棄物の種類ごとに分別収集を徹底することで、廃棄量の削減とゴミの再資源化に努めています。





橋梁現場における地元交流



施工現場各地で工事見学会を開催し、地域との交流を図るとともに、施工内容への理解を深めていただいています。西普天間橋梁架設現場に位置する「生態系保全上重要な自然環境」としているインジャーの枯れ谷地形」のゴミ清掃もおこないました。



西普天間橋梁 宜野湾市現場見学会



西普天間橋梁 インジャー内清掃



役内川橋 雄勝振興局現場見学



役内川橋 雄勝地区消防署説明会



潮高架橋 広幡小現場見学会



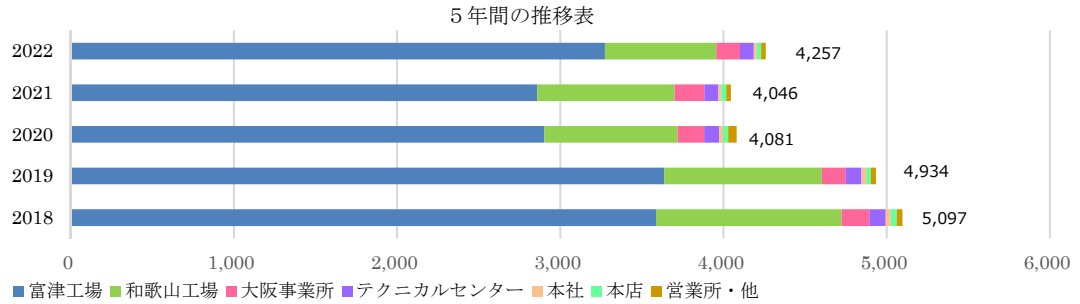


温室効果ガス排出量と使用エネルギー量の推移

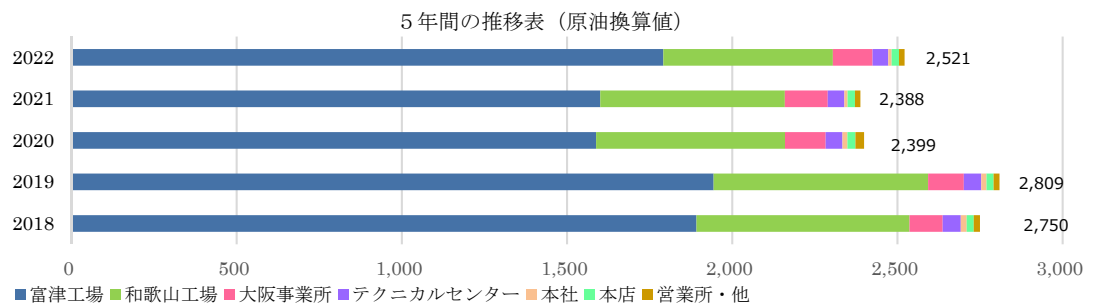
当社は、気候変動の原因となる CO₂ 排出量の削減のため、省エネルギー活動に積極的に取り組んでいます。製造工程では、ピーク電力を抑制する工程立案などさまざまな方法での効率改善化、生産設備導入の際には消費電力量の考慮等、省エネ視点での活動により CO₂ 排出量の削減を図っています。



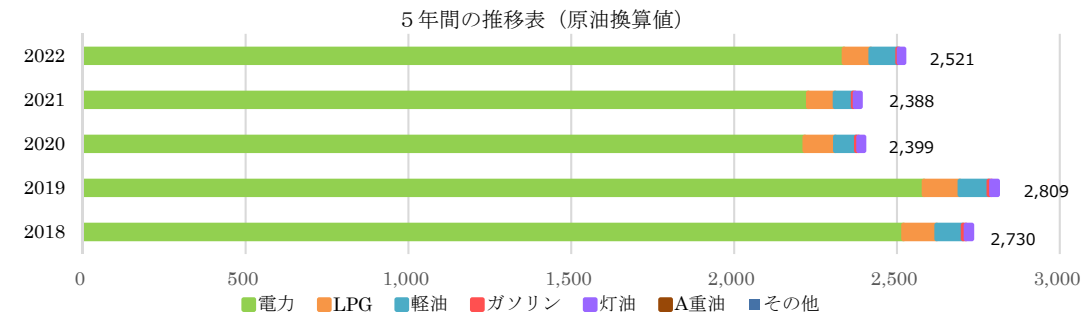
CO₂ 排出量の推移



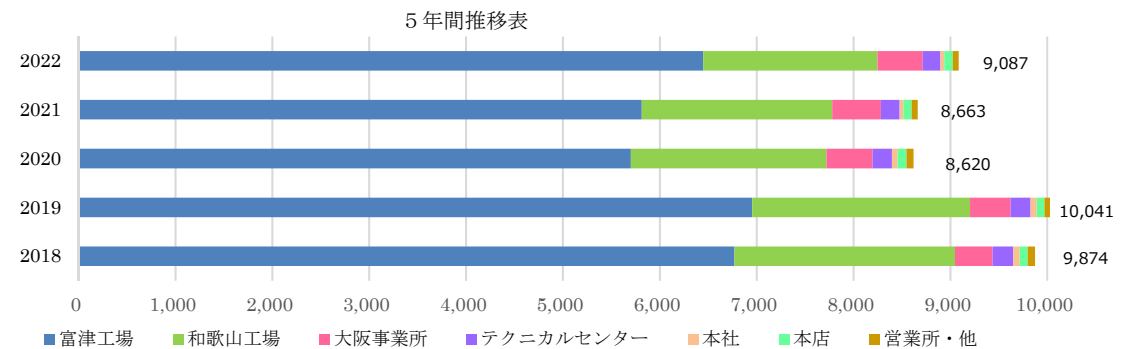
エネルギー使用量の推移



エネルギーの種類の推移



電力使用量の推移





当社は環境負荷低減を追求し、エコプロダクツ（環境配慮型製品）の開発に取り組んでいます。



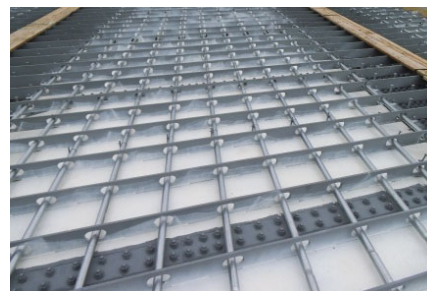
パイプスラブ（鋼コンクリート合成床版）

NETIS 番号:KK-040071-V(2017.4.20 掲載期間終了)

パイプスラブは、リブ（孔明き鋼板）とパイプ（構造用鋼管）とで構成された鋼板パネルがコンクリートと一体化することにより、大きな耐力と高い耐久性を実現した「鋼コンクリート合成床版」です。

「安（安全、安心）」「新（新技術、新発想）」「短（短工期）」による建設コスト縮減も特徴ですが、その高耐久性ゆえの長寿命化により、架け替えなどの更新期間の長期化が可能となり、施工に係る環境負荷が低減できるという利点があります。

※ パイプスラブは、日本ファブテック㈱、㈱IHIインフラシステムおよび当社の 3 社による共同開発商品です。



Rアンカー（抜取り可能なアンカーボルト）

NETIS 登録:KT-180026-A

橋梁工事では、仮設部材などを既設コンクリート構造物に固定するために、仮設アンカーボルトを埋め込むことが多くあります。一般に、仮設アンカーボルトは完全に撤去することが困難で、コンクリート構造物内部に異物として残してしまう問題がありました。

「R アンカー」は、アンカーボルトに特殊コーティングを施すことにより、使用後に完全に抜き取ることができるあと施工アンカーボルトです。「R アンカー」はコンクリートに優しく、既設インフラ構造物の持続可能性の向上に寄与できる製品です。



アロンブルコート® Z-X、Z-Y工法

NETIS 登録:CB-120013-VR(2023.3.31 掲載期間終了)

「アロンブルコート® Z-X、Z-Y工法」は、アクリルゴムを用いてコンクリート表面の剥落・劣化を防止する「コンクリート表面保護工法」で以下のような特長があります。

■「環境に優しい」

有機溶剤を一切含まず、オール水系材料としました。

■「コンクリートに優しい」

水蒸気透過性を従来以上に高め、コンクリート内部に残留している水分を発散できるようにしました。

■「メンテナンスが容易」

既設塗面を剥ぎ取ることなく、重ね塗りが可能です。

（剥ぎ取りの廃棄物を出さないことで ECO を実現）

■「安価」

塗り重ね回数を 6 回から 4 回に減らし、材料及び施工面での経済的な優位性を実現しました。

※「アロンブルコート®Z-X、Z-Y 工法」は、東亜合成㈱と当社の共同開発商品です。

※文中の比較対象製品は共同開発者の東亜合成㈱の従来製品です。

※表面被覆材（下塗材）の内、アロンブルコート®P-300 は、グリーン購入ネットワーク（GPN）が運営する『エコ商品ねっと』に掲載されている商品です。なお、同サイトは多様な分野の環境情報を掲載し、商品選択の際に比較可能な環境データベースを公平に提供するもので、個別の掲載商品を推奨するものではありません。





主要事業所（サイト）における環境マネジメントシステムへの取組

・富津工場

部門項目	具体的施策	結果
1. 環境負荷低減 ・電気使用量の管理と低減 原単位△2%/前々年度 ・環境MS,ESG,SDGs活動	・フロン排出抑制法に基づく自主点検 ・工場内照明 LED 化(次年度予定)に向け調査を実施 ・東京電力とデマントレスホプス契約締結 ・事務所 5 階廊下、各フロア給湯室、鉄鋼管理棟 2 階会議室の照明 LED 化実施 ・空調一部更新(削減効果 3,218kWh/年) ・家族寮 EV 更新(削減効果 1,371kWh/年) ・橋梁、鉄構加工棟屋根に太陽光パネル設置、売電開始(11 月) ・製作着手前会議、品質改善会議および前工程でのチェック強化による不具合・手戻り抑止対策、進捗管理強化で無駄なエネルギー消費を抑制	・原単位 前々年度比+36.59% 前々年度は操業度が高く、原単位が例年より小さい値であったことに加え、生産性(作業効率)向上に伴う操業時間の減少により、前々年度比が大幅な増加となっている。
2. 環境側面管理(サイト環境側面管理表の履行管理) ・3R(リデュース、リユース、リサイクル)活動の継続的推進と履行管理 ・環境省エネ小委員会での活動結果検証	・各部門からの取り組み状況報告、活動実績の共有 ・環境省エネ小委員会で KH グループの CO ₂ 排出量集計結果を展開	・環境省エネ小委員会 計 4 回(6 月、9 月、12 月、3 月)開催 ・関係法令の見直し・周知(プラスチック使用製品産業廃棄物)
3. 産業廃棄物排出量の削減目標値設定 ・産業廃棄物発生量を生産量の 1%以内に抑える	・文書管理・工程管理システム活用推進により変更情報を早期展開、無駄となる材料の発生を抑制 ・産業廃棄物、有価物選別の随時実施による産業廃棄物の削減継続 ・小集団活動による入材情報の共有とリスト管理の実施	・産業廃棄物発生量は生産量の 1.45%で前年度生産量比△2.1% ・産業廃棄物量の有価処理 79.1%(産廃処理 20.9%) ・パソコンのリユース・リサイクル実施(137 台)
4. ごみ減量(リデュース)の目標値設定 ・古紙、ファイル等の事務用品再利用	・電子媒体使用によるペーパーレス化の推進でコピー使用量増加抑制(膜厚検査の音声入力、電子野帳の運用、WEB 検査活用、「でんさい」による手形等) ・段ボールの再利用による廃棄物削減	・コピー使用量前年度比+1.06%、前年度生産量比△7.1%
5. 地域貢献活動(地域交流、近隣清掃など) ・工場周辺の清掃活動 ・富津市への貢献活動	・工場周辺の清掃活動に各部門より参加 ・下洲海岸清掃活動の実施(12/3、3/4)	・工場周辺清掃 11/9 実施 ・富津岬海岸清掃活動へ参加

・和歌山工場

部門項目	具体的施策	結果
1. 環境負荷の低減 ・小委員会主導による意識向上・理解 ・各エネルギー使用量の管理・削減 原単位 △2%/前々年度	・パトロールによる改善 ・無駄時間・工場費の削減意識によりエネルギー使用量減 ・エア漏れ修繕 ・事務所屋根遮熱塗料による塗替え実施 ・水素切断デモ ・環境配慮切削油使用 ・生産性向上機器導入(開先加工機) ・グリーンカーテン設置	・原単位 前々年度比 △27.1% 今年度は削減取り組みに加え、ベース電力の見直しもあり、大きな値での減少となった。

部門項目	具 体 的 施 策	結 果
2. 環境側面管理(サイト環境側面管理表の履行管理) ・管理項目の履行と効果検証 *ピーク電力対策 *分別回収強化 *省エネパトロール実施 *グリーン購入・再利用 *不具合削減への取組み	・受電日誌にてピーク電力の確認・管理 ・小委員会にて分別回収の報告、啓蒙 ・環境・省エネ小委員会等で啓蒙 ・業務課、製造課中心にエコ商品の選別購入実施・社内一括購入実施 ・不具合削減について事前図面回覧、品質管理検討会、材手前検討会、工作会議等に対応	・ピーク電力超過無し ・分別回収について啓蒙・指導・パトロール監視 ・省エネパトロールを定期に実施 ・エコ商品購入実施 ・不具合削減について各種会議にて取組実施
3. 産業廃棄物排出量の削減目標値設定 前年比 △5% ・スクラップ移行の継続 ・スクラップ化検討	・溶接ワイヤースプールを有価物処理実施 ・スクラップ回収業者を近隣業者へ変更し、業者のガソリン消費を低減	・前年比 △37% 今期は産廃処理回数が少なく大幅減となった。(次期は回数増の予定) ・鋼材スクラップ増加(材料ロスの増加も要因)
4. ごみ減量(リデュース)の目標値設定 ・電子化の推進 ・古紙回収	・各種回覧、配布資料、申請書類を電子化 ・古紙回収について小委員会にて報告、削減への意識付けと取組実施 ・古切手回収後、郵便局へ返却等の対応	・各種回覧物を電子化 ・排出量(カサ)の削減を取組実施
5. 地域貢献活動(地域交流、近隣清掃など) ・由良町古紙回収協力 ・地域清掃活動への参加 ・地域交流	・由良町古紙回収協力 ・「リフレッシュ瀬戸内」海岸清掃参加	・小・中学校の古紙回収協力実施 ・吹井地区清掃、海岸清掃実施 ・工場見学会実施 ・予防接種協力 ・選挙立会人協力 ・由良町公園にベンチ寄贈

・本社

部門項目	具 体 的 施 策	結 果
1. 環境負荷の低減 ・原単位 △2%／前々年度 ・従業員の節電意識の向上 ・空調使用の削減 ・トレスコードフリーの実施	・ガルーン・朝礼による啓蒙活動 *環境省エネ小委員会のアナウンス *空調機使用状況の把握 *トレスコードフリーの実施	・原単位 前々年度比 △18.21% ・ライトダウン 6/21、7/7 実施
2. 環境側面管理(サイト環境側面管理表の履行管理) ・電気使用・廃棄物の状況把握 ・増減の要因分析 ・電気使用・廃棄物の状況とその分析結果のサイト内フィードバック	・衛生・省エネ小委員会での使用状況の確認 ・ガルーン・朝礼による結果報告 ・8月以降廃棄物(特に紙ごみ)が超過していることをアナウンスし、注意喚起を図った ・マイカップ使用、コピー用紙リサイクルの徹底を呼びかけ	・電気使用・廃棄物の状況とその分析結果のサイト内周知実施
4. ごみ減量(リデュース)の目標値設定 △1%／前年度 ・従業員の廃棄物削減意識の向上 ・紙類のリサイクル徹底	・ガルーン・朝礼による啓蒙活動 *衛生・省エネ小委員会のアナウンス *印刷の削減、コピー用紙リサイクル徹底呼びかけ *ゴミ箱、ゴミ分別表の再リニューアル	前年度比+15.78%
5. 地域貢献活動(地域交流、近隣清掃など) ・地域の清掃活動へ参加	・台東区の清掃活動「大江戸清掃隊」へ参加	・毎月第3水曜日に社員持ち回りで活動実施(全12回) ・5月区全体活動はコロナ禍で中止

・本店

部門項目	具体的施策	結果
1. 環境負荷の低減 ・電力使用量の低減 ・原単位 △2%/前々年度 ・クールビズ ・ライトダウン実施 ・関西エコオフィス宣言	・換気をしながら室温 20 度基準で対応 ・モニター輝度 40%を啓蒙 ・クールビズの実施について受付に掲示、11 月からはトレスコードフリーに変更	・原単位 前々年度比 △5.4% ・クールビズ 10 月末まで実施 ・ライトダウン 6/22、7/6 実施 ・関西エコオフィス宣言実施中
2. 環境側面管理(サイト環境側面管理表の履行管理) ・「リサイクル」脱プラ、グリーン購入 *ゴミの分別 *文具の環境製品購入 100% ・「リユース」余剰購入の防止 *パイプファイル再利用 100%	・テナントビルの清掃方針に合わせたゴミの分別徹底 ・廃プラに関する方針に変更なし ・OA紙の分別徹底 ・少額購入システムにより監視(CSVファイルで保管)	・ゴミの分別順守 ・文具の環境製品購入 100%達成 ・パイプファイル再利用 100%達成 ・テプラテープカートリッジのメーカー返却実施
4. ごみ減量(リデュース)の目標値設定 ・コピー用紙の使用状況管理 前年度からの使用量減	・コピー用紙の購入状況及びカウント量記録による監視(第4四半期よりビル協力による計測を開始、次年度を基準年とする)	・コピー用紙使用量横ばい
5. 地域貢献活動(地域交流、近隣清掃など) ・大阪市クリーンアップ作戦実施 ・大阪地域貢献企業バンクの登録継続	・地域貢献企業バンク登録企業として大阪市ホームページに掲載中(連携事業の実績はなし)	・大阪市クリーンアップ作戦 2/22 実施 ・大阪地域貢献企業バンクに登録、継続中

・大阪事業所

部門項目	具体的施策	結果
1. 環境負荷の低減 ・電気使用量の管理と低減 ・原単位 △2%/前々年度 ・ライトダウンキャンペーンの実施	・省エネ推進委員会(6 回開催)でエネルギー使用量と生産動向監視 ・工場におけるピーク需要電力が重ならないよう作業を調整することで電気使用量の管理と低減を実施 ・グリーンカーテンの設置(4/28)、撤去(11/25) ・電気使用量の動態管理	・原単位 前々年度比 +51.99% 従業員数減少に伴う作業時間の減少が要因であると思われる。(原油換算値の増加は約 5%、工場時間数は約 35%減少) ・ライトダウン 6/21、7/7 実施
2. 環境側面管理(サイト環境側面管理表の履行管理) ・3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進と履行管理 ・リサイクル量の把握	・省エネパトロール実施(6 回)	・廃紙 前年度比 △37%
3. 産業廃棄物排出量の削減目標値設定 前年度比 △1%	・廃棄物の分別方法の見直し	・前年度比 △16%
4. ごみ減量(リデュース)の目標値設定 ・廃棄物の削減量の把握	・廃紙、廃棄物の動態管理	・一般廃棄物 前年度比 △22%
5. 地域貢献活動(地域交流、近隣清掃など) ・グリーンカーテン撤去時の歩道部美化活動 ・大阪マラソン・びわ湖毎日マラソン統合大会クリーンアップ作戦への参加	・グリーンカーテン撤去作業時に歩道部の美化活動を実施 ・大阪マラソンクリーンアップ作戦 2/17 参加	・グリーンカーテン撤去、歩道部の美化活動 11/25 実施 ・大阪マラソンクリーンアップ作戦にて、周辺歩道部の美化活動に取り組んだ

・テクニカルセンター

部門項目	具体的施策	結果
1. 環境負荷の低減 ・原単位 △2%/前々年度 ・電気使用量の管理、低減 ・ライトダウンキャンペーン(環境省)継続	・継続的啓蒙活動 ・電気使用状況の報告(衛生・省エネ小委員会) ・ライトダウンキャンペーンの実施継続(毎年7月)	・原単位 前々年度比 △7.4% ・ライトダウン 7/7 実施
2. 環境側面管理(サイト環境側面管理表の履行管理) ・衛生・省エネ小委員会の実施 ・省エネパトロールの実施 ・防災防火訓練の実施 ・BCP用発電機の試運転の実施	・衛生・省エネ小委員会により環境側面の展開周知 ・各部署の環境パトロールを持ち回りで実施	・環境側面の理解 ・削減意識の向上 ・危機管理意識の向上 ・防災防火訓練 12/12 実施 ・発動発電機の使用訓練を持ち回りで実施(隔月)
4. ごみ減量(リデュース)の目標値設定 ・タブレット導入によるペーパーレス化 ・廃棄物の分別 ・リサイクル量の把握、報告 ・エコキャップ活動継続 ・廃紙の有価物としての引き取り	・タブレット使用の推奨 ・ゴミの分別、リサイクル量の報告(衛生・省エネ小委員会) ・廃コピーの状況報告(衛生・省エネ小委員会) ・エコキャップ回収・送付	・廃棄物の削減意識の向上 ・各課にてエコキャップ活動実施中
5. 地域貢献活動(地域交流、近隣清掃など) ・地球温暖化対策地域推進計画継続 ・職場見学・職場体験の受け入れ継続 ・松戸TC周りの道路清掃	・松戸市「まつど脱炭素社会推進事業所」の対象項目に沿って取り組み ・松戸TC周りの道路清掃	・地球温暖化対策地域推進計画継続 ・職場見学・職場体験の受け入れ要請無く未実施 ・近隣清掃 1 回/年実施

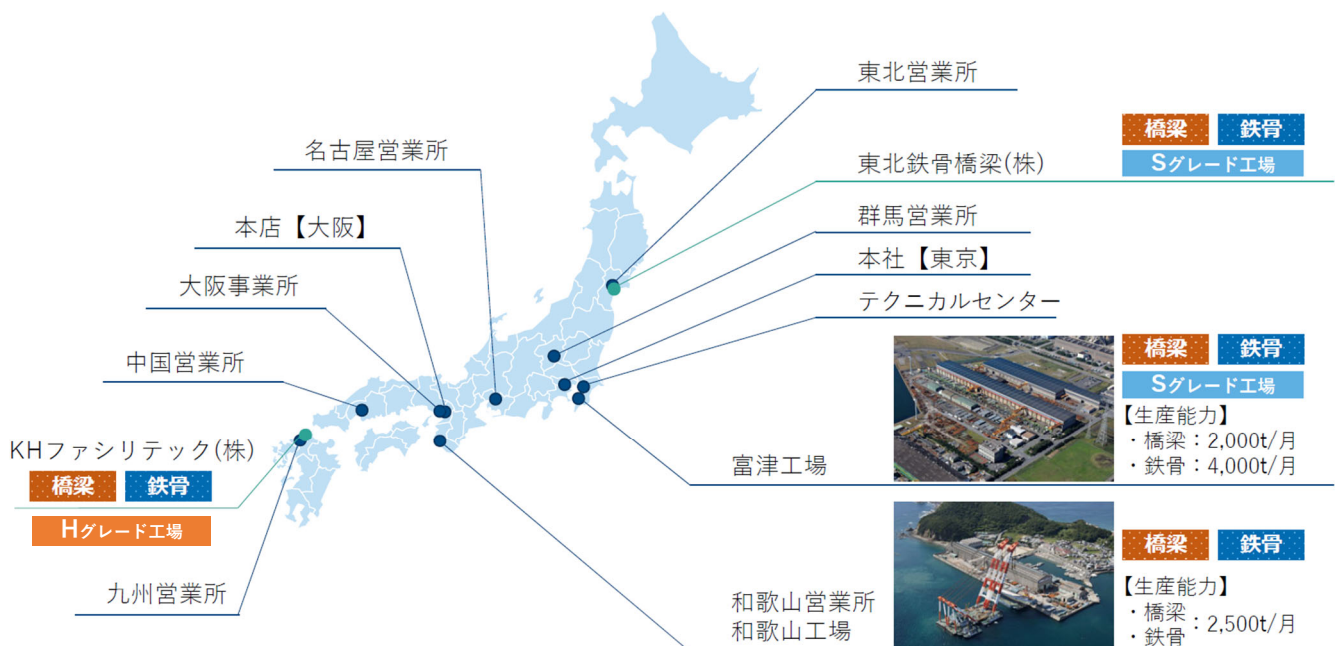
会 社 概 要





会社概要

商 号	株式会社駒井ハルテック(英訳名 KOMAIHALTEC Inc.)
設 立	1883 年(明治 16 年)創業
本社所在地	東京都台東区上野一丁目 19 番 10 号
従 業 員 数	633 名(2023 年 3 月 31 日現在)(連結)
資 本 金	66 億 1,994 万円(2023 年 3 月 31 日現在)
株 式 上 場	東京証券取引所 プライム市場
建設業許可	国土交通大臣 許可(特-3) 第 142 号
ISO 認 証	ISO9001, ISO14001
事 業 内 容	<p>【橋梁事業】橋梁の設計・製作及び現場架設、鋼橋の現場工事の施工及び維持補修</p> <p>【鉄骨事業】鉄骨・鉄塔の設計・製作及び現場建方</p> <p>【インフラ環境事業(再生可能エネルギー・海外インフラ事業)】 風力発電システム及び太陽光発電システムの設計、製作、施工</p>
関 連 会 社	<p>【連結子会社】</p> <p>東北鉄骨橋梁(株) 鉄骨・橋梁</p> <p>(株)シックス 印刷・不動産</p> <p>KH ファシリテック(株) 鉄骨・橋梁</p>
U R L	https://www.komaihaltec.co.jp/





(株)駒井ハルテック 事業所一覧

本社	〒110-8547 東京都台東区上野一丁目 19 番 10 号	TEL 03(3833)5101
本店	〒550-0012 大阪市西区立売堀四丁目 2 番 21 号	TEL 06(4391)0811
東北営業所	〒980-0014 仙台市青葉区本町二丁目 1 番 29 号	TEL 022(227)8724
群馬営業所	〒370-0831 群馬県高崎市あら町 129 番 1 号	TEL 027(384)4863
名古屋営業所	〒460-0003 名古屋市中区錦二丁目 20 番 8 号	TEL 052(684)8121
和歌山営業所	〒649-1122 和歌山県日高郡由良町神谷 805 番 2 号	TEL 0738(65)2841
中国営業所	〒730-0036 広島市中区袋町 5 番 38 号	TEL 082(247)4838
九州営業所	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東二丁目 4 番 17 号	TEL 092(441)3665
富津工場	〒293-0011 千葉県富津市新富 33 番 10 号	TEL 0439(87)7470
和歌山工場	〒649-1122 和歌山県日高郡由良町神谷 805 番 2 号	TEL 0738(65)1234
大阪事業所	〒555-0041 大阪市西淀川区中島二丁目 5 番 1 号	TEL 06(6475)2111
テクニカルセンター	〒270-2214 千葉県松戸市松飛台 404 番 1 号	TEL 047(387)0170



関連会社一覧

東北鉄骨橋梁(株)

【 本社 】	〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町二丁目 14 番 27 号	TEL 022(221)7511
【 岩沼工場 】	〒989-2421 宮城県岩沼市下野郷字新関迎 230 番	TEL 0223(22)1611
(株)シップス	〒270-2214 千葉県松戸市松飛台 404 番 1 号	TEL 047(384)5281
KH ファシリテック(株)	〒808-0027 福岡県北九州市若松区北湊町 9 番 27 号	TEL 093(771)2368





KOMAIHALTEC Inc.